

データシート 目次

品質管理試験結果報告書	1258
様式-1 骨材試験報告書	1260
様式-2 骨材ふるい分け粒度試験表	1261
様式-3 下層路盤高さ測定	1262
様式-4 路盤厚さ測定	1263
様式-5 ソイルセメントの配合設計	1264
様式-6 アスファルト混合物の配合設計骨材フルイ分試験	1265
様式-7 アスファルト混合物配合設計	1266
様式-8 アスファルト混合物の配合設計(骨材粒度設計その1)	1267
様式-9 アスファルト混合物の配合設計(骨材粒度設計その2)	1268
様式-10 骨材の粒径加積曲線図(合成粒度)	1269
様式-11 混合物の理論最大密度計算表	1270
様式-12 マーシャル安定度試験(その1-a)	1271
様式-13 マーシャル安定度試験(その1-b)	1272
様式-14 マーシャル安定度試験(その2)	1273
様式-15 アスファルトの抽出及びふるい分け試験	1274
様式-16 アスファルトの抽出試験(ソックスレー法)	1275
様式-17 アスファルト抽出試験後の骨材ふるい分け試験	1276
様式-18 アスファルト温度の測定	1277
様式-19 合材温度の測定	1278
様式-20 基準密度決定試験	1279
様式-21 打設温度の測定	1280
様式-22 現場採取りコアー厚さ測定	1281
様式-23 現場採取りコアー密度測定	1282
様式-24 ホイールトラッキング試験	1283
様式-25 レディーミクストコンクリート配合計画書	1284
様式-26 コンクリート用砕石式試験成績書	1286
様式-27 コンクリート用砕砂試験成績書	1287
様式-28 レディーミクストコンクリート納入書	1288

データシート

平成 年度

郡 町
市 村 地内

工事

品質管理試験結果報告書

平成 年 月 日

請負会社

試験担当者

(A4判)

骨 材 試 験 報 告 書

平成 年 月 日

製造工場名

切込碎石 (40~0 mm) 試験表
粒調碎石 (30~0 mm)

工 事 名	工 事			
工 事 個 所	線	郡 市	町 村	地内
試験実施月日	平成	年	月	日
納入予定月日	平成	年	月	日

配 合 試 験

区 分	試 験 結 果		
粒 度	別紙粒径加積曲線に示す		
含 水 比 (最適含水比)	%別紙試験表のとおり		
L L	%	〃	
P L	%	〃	
P I	%	〃	
最大乾燥密度	%	〃	
修正 C. B. R	%	〃	
粒調 碎石	切込碎石	%	(重量百分率)
	砂	%	(〃)
	石 粉	%	(〃)
原 石 (該当のものを○で囲む)	山碎、玉碎	採 取 箇 所 名	
	山碎、川砂		
運搬所要時間	分	試験者氏名	

(A4判)

下層路盤高さ測定

工事名 _____ 工事 _____

測定年月日 _____ 年 _____ 月 _____ 日

種別 _____

測定者 _____

測定 年月日	測定箇所		計画高	実測高	高低差	適用
	測点	位置				

- (注) (1) 「位置」欄には左側、中心、右側を各々L.C.Rで表わし、L及びRの場合は中心からの距離も記入する。
 (2) 「高低差」欄は計画高に対し実測高が高い場合は「+」、低い場合は「-」の符号を付して表わすこと。

(A4判)

路 盤 厚 さ 測 定

工事名 _____

測定年月日 _____ 年 _____ 月 _____ 日

路盤の種類 _____

測定者 _____

(注 距離は中心から)

(注 50m以内に1ヶ所)

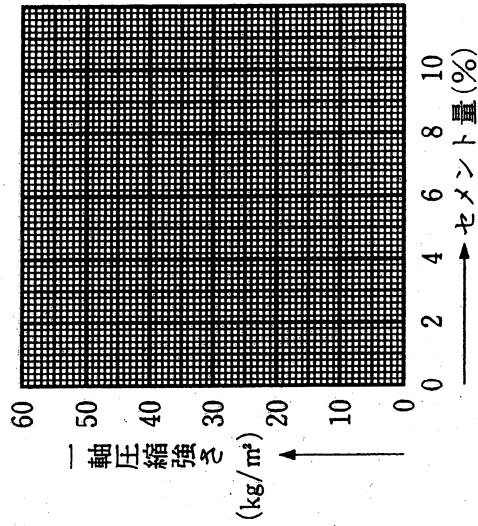
No	測定箇所			設計値 (cm)	測定値 (cm)	増減差 (+-) cm	適要
	測点	位置	距離m				
1							
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
記事							

(A4判)

ソイルセメントの配合設計

工事名	工事	骨材中25-13mmフルイの部分で置きかえた量	最適含水比
工事箇所	線	使用したセメントの種類	試験年月日
		最適含水比決定の際のセメント量	試験者

セメント量 (%)	試料◎	乾燥密度 γ _d (g/m ³)	一軸圧縮試験	
			強さ (kg/m ²)	最大荷重 (kg)
	1			
	2			
	3			
	平均			
	1			
	2			
	3			
	平均			
	1			
	2			
	3			
	平均			
	1			
	2			
	3			
	平均			



$$\text{一軸圧縮強さ } (\sigma) = \frac{\text{最大荷重 (P) kg}}{\text{供試体断面積 (A) m}^2} = 0.0127 P \text{ kg/m}^2$$

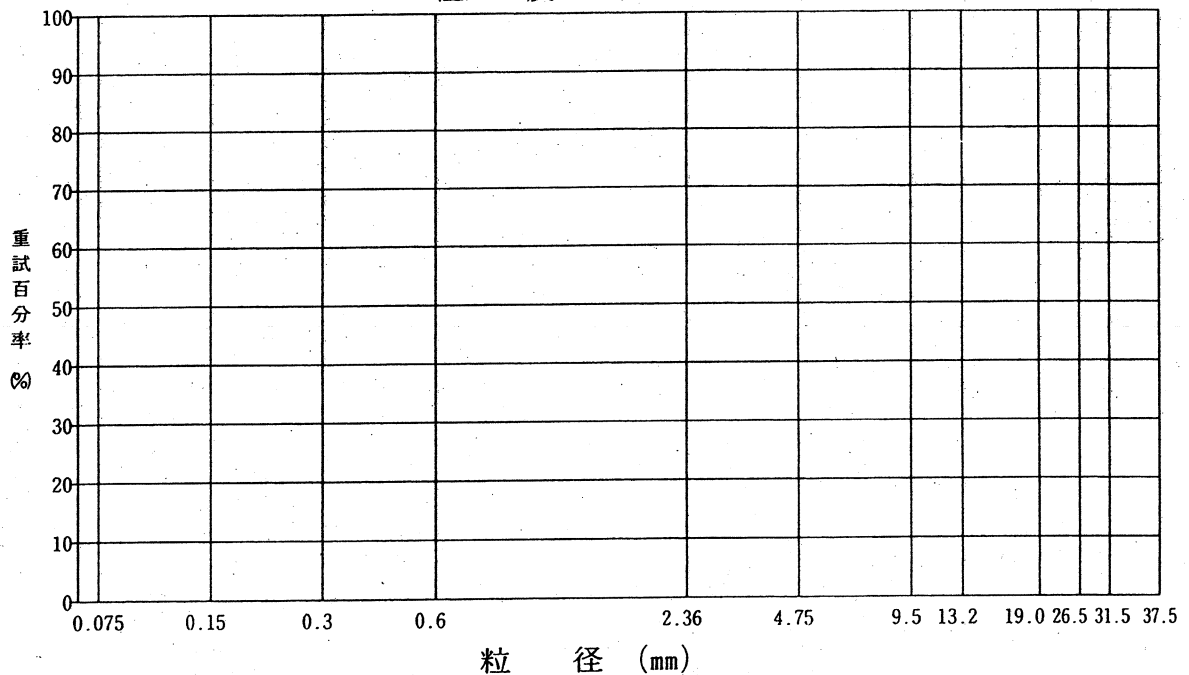
(A4 半)

アスファルト混合物の配合設計骨材料フルイ分試験

工 事 名	混合物の使用場所
混合物種類	試験年月日 年 月 日
試料採取場所	試 験 者

項目 (mm) フルイ									
	加積残留 重量(g)	残 留 率 (%)	通過百分 率 (%)	加積残留 重量(g)	残 留 率 (%)	通過百分 率 (%)	加積残留 重量(g)	残 留 率 (%)	通過百分 率 (%)
53.0									
37.5									
31.5									
26.5									
19.0									
13.2									
9.5									
4.75									
2.36									
0.6									
0.3									
0.15									
0.075									
Pass									

粒 度 曲 線



(A4判)

アスファルト混合物配合設計

線	郡 市	町 村	地内
工事		配合設計担当者	
請負会社		混合物の種類	

(A) 実施配合

1. 各ホットビン骨材フルイ分け試験表
2. 粒径加積曲線図
3. 実施配合（配合百分率の決定）
4. 合成粒度計算表
5. 粒径加積曲線図（粒度調整骨材）

(B) 混合物理論最大密度計算表

(C) マーシャル試験 5 種類

(D) アスファルト量決定図

(A4 判)

アスファルト混合物の配合設計(骨材粒度設計その1)		試験 報告 用紙						
試料番号 _____	混合物の使用場所 _____							
調査名・目的 _____	試験年月日 _____年____月____日							
混合物の種類 _____	試験者 _____							
1. 使用予定骨材のふるい分け試験結果								
ふるいの呼び寸法	使用予定骨材の加積通過質量百分率 (%)							
	1.	2.	3.	4.	5.	6.	7.	8.
37.5 (mm)								
31.5								
26.5								
19								
13.2								
9.5								
4.75								
2.36								
1.18								
600 (μm)								
300								
150								
75								
受皿								
2. 使用予定骨材の配合百分率の決定								
		混合百分率(A)						
通過質量百分率 (%)								
	ふるい目の呼び寸法 (mm)							

(A4判)

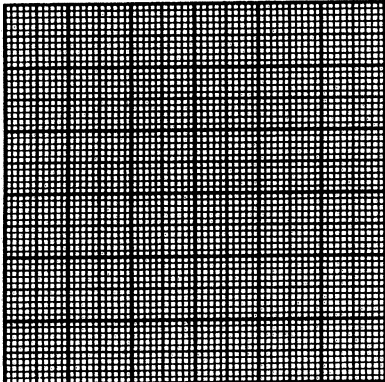
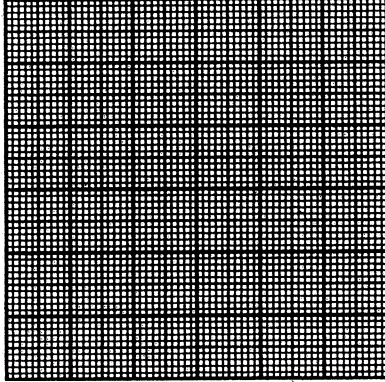
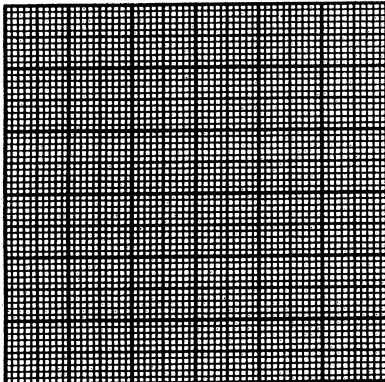
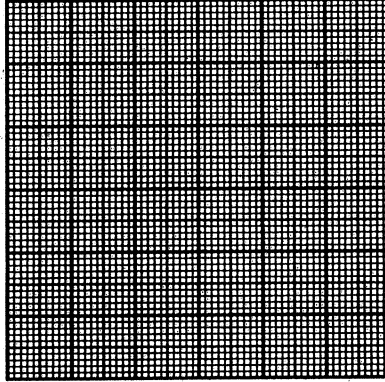
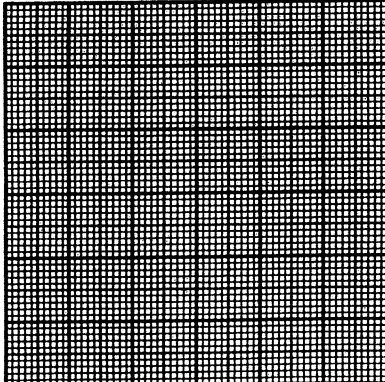
アスファルト混合物の配合設計 (骨材粒度設計その2)										試験報告 用紙								
試験番号	_____			混合物の種類	_____			試験年月日	____年__月__日									
調査名・目的	_____			混合物の使用場所	_____			設計書	_____									
3. 使用予定骨材の合成粒度																		
骨材	1	2	3	4	5	6	7	8	各骨材のふるい目の大きさ別配合率(A)×(B)		合成粒度	予定粒度						
配合率(A)(%)									1	2	3	4	5	6	7	8		
通過																		
37.5(mm)																		
31.5																		
26.5																		
19																		
質量																		
13.2																		
9.5																		
4.75																		
2.36																		
1.18																		
(B)																		
600(μm)																		
%																		
300																		
150																		
75																		
4. 骨材の比重による配合率の補正											備考							
骨材	1	2	3	4	5	6	7	8			計							
骨材配合百分率(I)%																		
骨材の比重(II)																		
(I) × (II)																		
補正配合率%																		

骨材の粒径加積曲線図 (合成粒度)	試験報告用紙																																										
<p> 試料番号 _____ 混合物の種類 _____ 試験年月日 _____ 年 _____ 月 _____ 日 調査名・目的 _____ 混合物の使用場所 _____ 作成者 _____ 試料採取場所 _____ ふるい分け試験番号データシート No. _____ </p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">ふるい目の呼び寸法</th> <th style="width: 80%;">通過質量百分率(%)</th> <th style="width: 10%;">予定粒度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>37.5(mm)</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>31.5</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>26.5</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>19</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>13.2</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>9.5</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4.75</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2.36</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1.18</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>600(μm)</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>300</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>150</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>75</td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	ふるい目の呼び寸法	通過質量百分率(%)	予定粒度	37.5(mm)			31.5			26.5			19			13.2			9.5			4.75			2.36			1.18			600(μm)			300			150			75		
ふるい目の呼び寸法	通過質量百分率(%)	予定粒度																																									
37.5(mm)																																											
31.5																																											
26.5																																											
19																																											
13.2																																											
9.5																																											
4.75																																											
2.36																																											
1.18																																											
600(μm)																																											
300																																											
150																																											
75																																											

(A4判)

混合物の理論最大密度計算表					試験用紙 報告	
試料番号		試験年月日 年 月 日				
調査名・目的		計算者				
混合物の種類						
混合物の使用場所						
①	②	③			④	⑤
骨材の種類	骨材配合率 (%)	骨材の比重			計算に用いる比重	$\frac{②}{④}$
		表乾	かさ	見掛		
Σ⑤=						
⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	
アスファルト量 (%)	アスファルトの 密度(g/cm ³)	$\frac{⑥}{⑦}$	$\frac{Σ⑤(100-⑥)}{100}$	⑧+⑨	理論最大密度 100/⑩	
備考						

	マーシャル安定度試験 (その2)	試験 報告 用紙
試料番号 _____	試験年月日 _____年 _____月 _____日	
調査名・目的 _____	混合物の使用場所 _____	
混合物の種類 _____	試験者 _____	

<p>密度 (g/cm³)</p> 	<p>安定度 (kg)</p> 
<p>空げき率 (%)</p> 	<p>飽和度 (%)</p> 
<p>フロー値 ($\frac{1}{100}$cm)</p> 	<p>バインダ量 (%)</p> <p>最適バインダ量の決定</p> <p>密度 ----- </p> <p>安定度 ----- </p> <p>空げき率 ----- </p> <p>飽和度 ----- </p> <p>フロー値 ----- </p> <p>共通範囲 _____ %</p> <p>最適バインダ量 _____ %</p>

(A4判)

アスファルトの抽出及びふるい分け試験

工 事 名			
路 線 名	試料採取場所		
混合物の種類	試 験 月 日	年	月 日
	試 験 者		

(抽出試験)

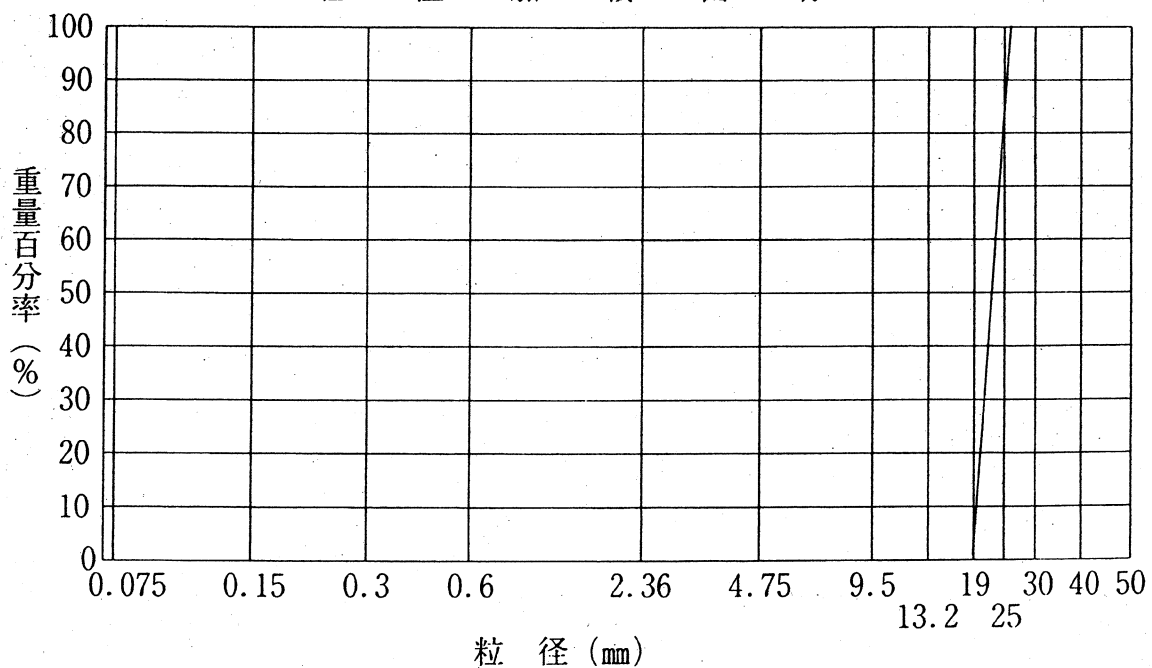
試料測定番号	No.
1. (ろ過器または円筒ろ紙+試料)重量	
2. ろ過器または円筒ろ紙重量	
3. 試料重量	1-2
4. 容器重量	()
5. (抽出後の骨材+器)重量	
6. 抽出後の骨材重量	5-4
7. 抽出後の円筒ろ紙重量	
8. 円筒ろ紙に付着したファイラー重量	7-2
9. 流出したファイラー重量	X
10. 全抽出骨材重量	6 + 8
11. アスファルト重量	3 - 10
12. アスファルト含有率	11/3x100

(骨材フルイ分試験)

フルイ目	加積残留重量 (g)	加積残留率 (%)	加積残留率 (%)
	26.5		
	19.0		
	13.2		
	9.5		
	4.75		
	2.36		
	0.6		
	0.3		
	0.15		
	0.075		
Pass		100	0

円筒ろ紙 No84使用

粒 径 加 積 曲 線



舗装試験法便覧	アスファルトの抽出試験 (ソックスレー法)	試験 報告 用 紙							
試料番号 _____	試験年月日 _____ 年 _____ 月 _____ 日								
調査名・目的 _____	試験者 _____								
混合物の種類 _____	ろ過装置の種類 _____	ろ過値・円筒ろ紙No. _____							
混合物の使用場所 _____	溶剤の種類 _____								
試料採取場所 _____									
試料測定番号	1	2	3	4					
①(ろ過器または円筒ろ紙+試料)質量(g)									
②ろ過器または円筒ろ紙質量(g)									
③試料質量(g)	①-②								
④容器質量(g)									
⑤(抽出後の骨材+容器)質量(g)									
⑥抽出後の骨材質量(g)	⑤-④								
⑦※抽出後の円筒ろ紙質量(g)									
⑧※円筒ろ紙に付着したフィルター質量(g)	⑦-②								
⑨流出したフィルター質量(g)	ⓧ								
⑩全抽出骨材質量(g)	※⑥+⑧ ⑥+⑨								
⑪アスファルト質量(%)	③-⑩								
⑫アスファルト含有率(%)	⑪/③×100								
抽出液中のフィルターの定量									
試料 測定 番号	加 圧 法			焼 却 法					
	A	B	ⓧ=B-A	C	D	E	F	G-F-E	ⓧ=C×C/D
	ろ紙の質量	ろ過後のろ紙質量	流出したフィルター質量	抽出液容積	定量液容積	灼熱さ質量	定量液焼却後のさ質量	残渣物質量	流出したフィルター質量
1									
2									
3									
4									
備考 ※円筒ろ紙使用の場合に利用 ※※定量液焼却後いったん冷却し、炭酸アンモニウム飽和溶液1mlを加え、一定量となるまで熱し、冷却後にさらごと軽量した質量									

(A4判)

アスファルト抽出試験後の骨材ふるい分け試験						試験 報告 用紙	
試料番号 _____			試料採取場所 _____				
調査名・目的 _____			試験年月日 _____ 年 _____ 月 _____ 日				
混合物の試料場所 _____			試験者 _____				
(抽出後の骨材+容器) 質量 _____ g			容器 (No. _____) 質量 _____ g				
試料質量 _____ g			抽出した試験で付着流出したフィルター質量(A) _____ g				
ふるい目の 呼び寸法	1			2			子定粒度
	加積残留質量(g)	加積残留率(%)	加積通過率(%)	加積残留質量(g)	加積残留率(%)	加積通過率(%)	
37.5(mm)							
31.5							
26.5							
19							
13.2							
9.5							
4.75							
2.36							
1.18							
600(μm)							
300							
150							
75							
受皿+(A)							
計							

	(ASTM) 200	100	80	50	40	30	20	16	8	4	(No.)
											3/8 1/2 3/4 1 1 1/2 (mm)
通過質量百分率(%)	100	90	80	70	60	50	40	30	20	10	0
(呼び寸法)	75	150	300	600(μm)	1.18	2.36	4.75	9.5	13.2	19	31.5 63 (mm)
											26.5 37.5

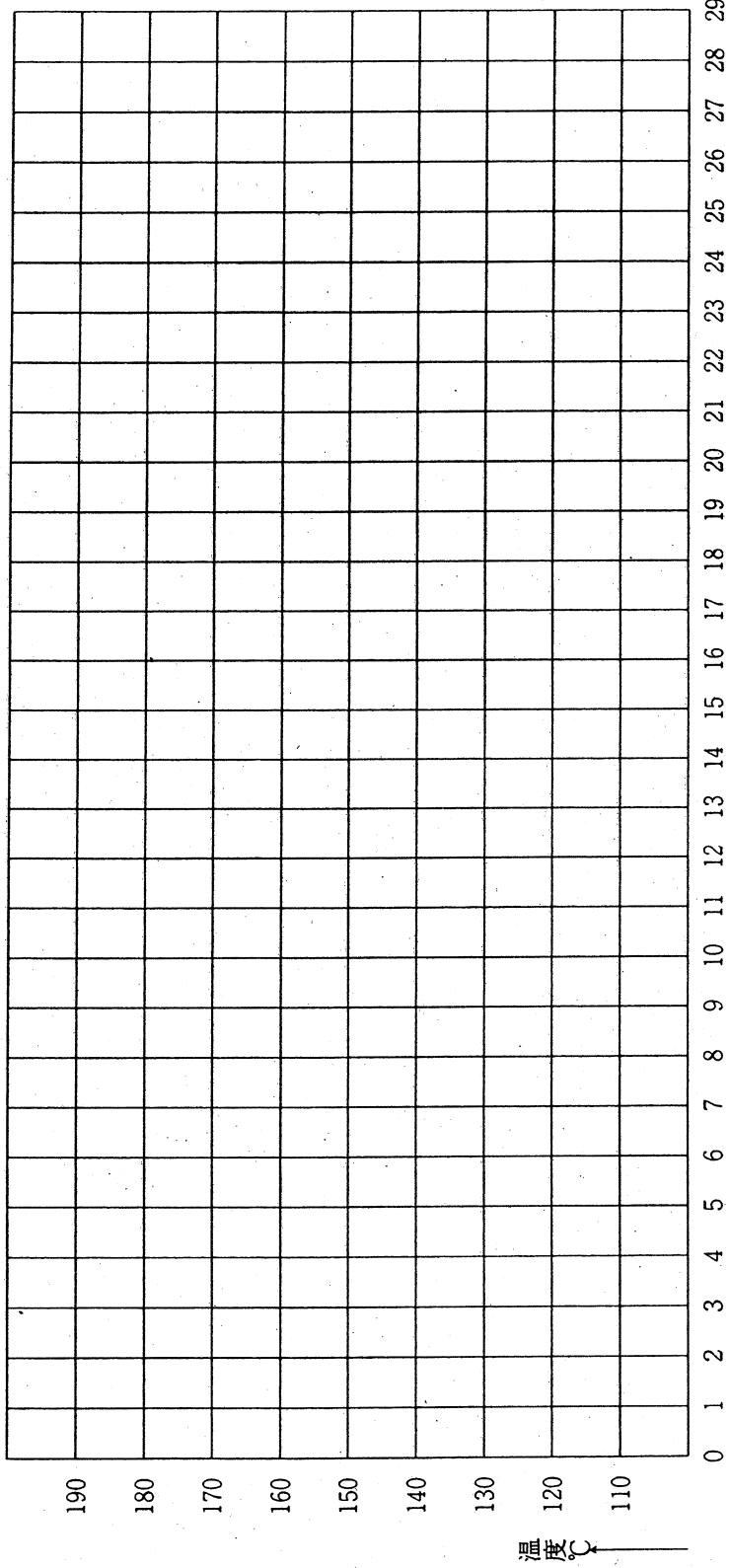
(A4判)

合 材 温 度 の 測 定

工 事 名 _____ 測定年月日 _____

工 事 箇 所 _____ 測 定 者 _____

合材の種類 _____



→トトラック台数
(注)：プラント出発時のトラック上の温度を測定のこと。

基準密度決定試験

工 事 名 _____

測 定 者 _____

混合物の種類 _____

基準密度 _____

計算式 密度 = $\frac{A}{B-C} \times 1 = g/cm^2$

測定日時	No.	締固の時の温度 ℃	厚 さ cm	Ⓐ 空中重量 g	Ⓑ ₀ 表乾重量 g	Ⓒ 水中重量 g	Ⓓ = Ⓑ - Ⓒ 容 積 cm ³	Ⓐ / Ⓓ 密 度 g/cm ³
AM PM	1							
	2							
	3							
	平均							
AM PM	1							
	2							
	3							
	平均							
AM PM	1							
	2							
	3							
	平均							
AM PM	1							
	2							
	3							
	平均							

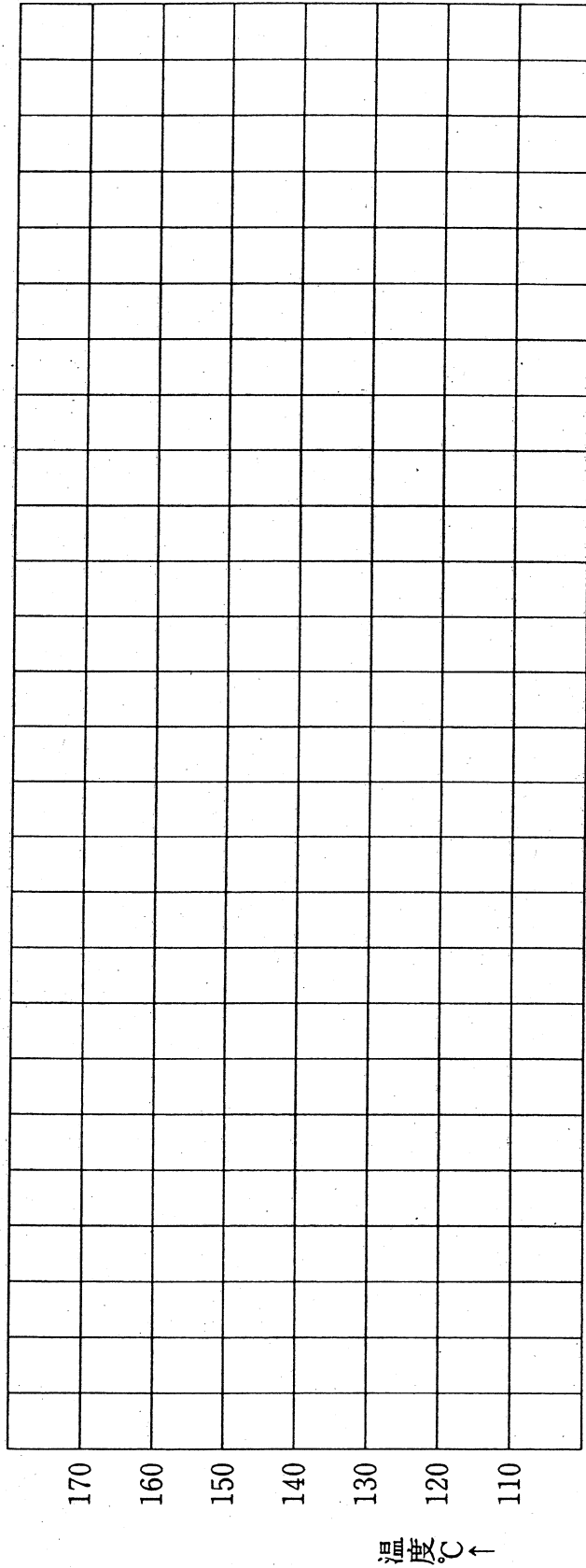
総平均基準密度 _____ g/cm³

備 考 平均厚さは直角方向の4点の平均とし、小数点以下2位を切捨てること。

(A4判)

打設温度の測定

工事名	測定年月日	年	月	日	
工事箇所	開始終了時間	時	分	時	分
合材の種類	最高最低気温	℃	~	℃	
打設位置	側車線	測定者			



測定位置
 (注)：初期転圧開始時に転圧する区間の起終点の温度を測定のこと。

現場抜き取りコアー厚さ測定

工 事 名 _____

測定年月日 年 月 日 _____

混合物の種類 _____

測 定 者 _____

(注 距離は中心から)

No.	測 定 箇 所			設 計 値 (cm)	測 定 値 (cm)					増 減 差 (+.-)cm	摘 要	
	測点	位置	距離 (m)		1	2	3	4	平均			
1												
2												
3												
4												
5												
6												
7												
8												
9												
10												
11												
12												
13												
14												
15												

(注) 1. 厚さは直角方向の4点の平均とし、平均値は小数点以下2位を切捨てること。
 2. 距離は中心から。

(A4判)

現場採取コア一密度測定

工 事 名 _____

試験年月日 _____ 年 _____ 月 _____ 日

混合物の種類 _____

試 験 者 _____

基 準 密 度 _____ g/cm³

計算式 密度 = $\frac{A}{B-C} \times 1 = g/cm^3$

No.	測定	Ⓐ 空中重量 (g)	Ⓑ 表乾重量 (g)	Ⓒ 水中重量 (g)	Ⓓ=Ⓑ-Ⓒ 容 積 (cm ³)	Ⓔ=Ⓐ/Ⓓ 密 度 (g/cm ³)	Ⓕ/Ⓖ×100 締固め率 (%)	摘 要
1								
2								
3								
4								
5								
6								
7								
8								
9								
10								
11								
12								
13								
14								
15								

(注) 密度はカサ密度とする。

(A4判)

ホイールトラッキング試験				
調査名・目的		試験年月日 年 月 日		
混合物の種類		試験者		
混合物の基準密度 (g/cm ³)				
供試体の作成場所		1. 室内	2. 現場	3. 現場切取り 換算計数 C ₂ =
試験条件	上載荷重	kg		60℃接地圧 kgf/cm ²
	試験温度	℃		走行回数
	走行方式	1. クランク式	2. チェーン式	換算計数 C ₁ =
供試体の No				
①供試体の密度 (g/cm ³)				
②供試体の締固め度 (%)				
変形量 (mm)	③ d30			
	④ d45			
	⑤ d60			
⑦変形量の差 (mm)	⑤-④			⑧
⑨動的安定度 (DS) (回/mm)	$X = \frac{15}{⑦} \times 42 \times C_1 \times C_2$			
⑩平均動的安定度 DS (回/mm)	$\frac{15}{⑧} \times 42 \times C_1 \times C_2$			⑩
⑪平均値との差の平方	(⑩ - X) ²			
⑫標準偏差	$S = \sqrt{(\sum ⑪ / n - 1)}$			⑫
⑬変動係数 (%)	⑫ / ⑩			
圧密変形量 (mm)	do			
時間-変形量曲線の形状				
備考				

(A4判)

レディーミクストコンクリート配合計画書										
No. _____					平成 _____ 年 _____ 月 _____ 日					
製造会社・工場名 _____										
配合計画者名 _____										
工 事 名 称										
所 在 地										
納 入 予 定 時 期										
本配合の適用期間 ¹⁾										
コンクリートの打込み箇所										
配 合 の 設 計 条 件										
呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スランブ又はスランブフロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号					
指 定 事 項	セメントの種類	呼び方欄に記載		空気量	%					
	骨材の種類	使用材料欄に記載		軽量コンクリートの単位容積質量	kg/m ³					
	粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載		コンクリートの温度	最高最低 ℃					
	アルカリシリカ反応抑制対策の方法 ²⁾			水セメント比の目標値の上限	%					
	骨材のアルカリシリカ反応性による区分	使用材料欄に記載		単位水量の目標値の上限	kg/m ³					
	水の区分	使用材料欄に記載		単位セメント量の目標値の下限又は目標値の上限	kg/m ³					
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載		流動化後のスランブ増大量	cm					
	塩化物含有量			kg/m ³ 以下						
	呼び強度を保証する材齢			日						
使 用 材 料 ³⁾										
セメント	生産者名				密度 g/cm ³			Na ₂ O _{eq} ⁴⁾ %		
混和材	製品名		種類			密度 g/cm ³			Na ₂ O _{eq} ⁵⁾ %	
骨材	No.	種 類	産地又は品名	アルカリシリカ反応性による区分 ⁶⁾		粒の大きさの範囲 ⁷⁾	粗粒率又は実積率 ⁸⁾	密度 g/cm ³		微粒分量の範囲 ⁹⁾ %
				区分	試験方法			絶 乾	表 乾	
細骨材	①									
	②									
	③									
粗骨材	①									
	②									
	③									
混和剤 ①	製品名						Na ₂ O _{eq} ¹⁰⁾ %			
混和剤 ②	製品名						Na ₂ O _{eq} ¹⁰⁾ %			
細骨材の塩化物量 ¹¹⁾		%		水の区分 ¹²⁾		%		目標スランブ 固形分率 ¹³⁾ %		
配 合 表 ¹⁴⁾ kg/m ³										
セメント	混和材	水	細骨材①	細骨材②	細骨材③	粗骨材①	粗骨材②	粗骨材③	混和剤①	混和剤②
水セメント比		%		水結合材比 ¹⁵⁾		%		細骨材率		%
備考 骨材の質量配合割合 ¹⁶⁾ 、混和剤の使用量については、断りなしに変更する場合がある。										

レディーミクストコンクリート配合計画書（続き）

アルカリ総量の計算表 ^①			
アルカリ総量の計算		判定基準	計算及び判定
コンクリート中のセメントに含まれるアルカリ量(kg/m ³) R_c $R_c = (\text{単位セメント量 kg/m}^3) \times (\text{セメント中の全アルカリ量 } Na_2O_{eq} : \% / 100)$	①= R_c	—	
コンクリート中の混和材に含まれるアルカリ量(kg/m ³) R_a $R_a = (\text{単位混和材量 kg/m}^3) \times (\text{混和材中の全アルカリ量} : \% / 100)$	②= R_a	—	
コンクリート中の骨材に含まれるアルカリ量(kg/m ³) R_s $R_s = (\text{単位骨材量 kg/m}^3) \times 0.53 \times (\text{骨材中の NaCl の量} : \% / 100)$	③= R_s	—	
コンクリート中の混和剤に含まれるアルカリ量(kg/m ³) R_m $R_m = (\text{単位混和剤量 kg/m}^3) \times (\text{混和剤中の全アルカリ量} : \% / 100)$	④= R_m	—	
流動化剤を添加する場合は、コンクリート中の流動化剤に含まれるアルカリ量(kg/m ³) R_p ^② $R_p = (\text{単位流動化剤量 kg/m}^3) \times (\text{流動化剤中の全アルカリ量} : \% / 100)$	⑤= R_p	—	
コンクリート中のアルカリ総量(kg/m ³) R_t $R_t = ①+②+③+④+⑤$	R_t	3.0 kg/m ³ 以下	適・否

^{a)} 本配合の適用期間に加え、標準配合、又は修正標準配合の別を記入する。
 なお、標準配合とは、レディーミクストコンクリート工場で社内標準の基本にしている配合で、標準状態の運搬時間における標準期の配合として標準化されているものとする。また、修正標準配合とは、出荷時のコンクリート温度が標準配合で想定した温度より大幅に相違する場合、運搬時間が標準状態から大幅に変化する場合、若しくは、骨材の品質が所定の範囲を超えて変動する場合に修正を行ったものとする。
^{b)} 表 B.1 の記号欄の記号事項を、そのまま記入する。
^{c)} 配合設計に用いた材料について記入する。
^{d)} ポルトランドセメント及び普通エコセメントを使用した場合に記入する。JIS R 5210 の全アルカリの値としては、直近 6 か月間の試験成績表に示されている全アルカリの最大値の最も大きい値を記入する。
^{e)} 最新版の混和材試験成績表の値を記入する。
^{f)} アルカリシリカ反応性による区分、及び判定に用いた試験方法を記入する。
^{g)} 細骨材に対しては、砕砂、スラグ骨材、人工軽量骨材、及び再生細骨材 H では粒の大きさの範囲を、砂では最大寸法を記入する。粗骨材に対しては、砕石、スラグ骨材、人工軽量骨材、及び再生粗骨材 H では粒の大きさの範囲を、砂利では最大寸法を記入する。
^{h)} 細骨材に対しては粗粒率の値を、粗骨材に対しては、実積率又は粗粒率の値を記入する。
ⁱ⁾ 砕石及び砕砂を使用する場合に記入する。
^{j)} 最新版の混和剤試験成績表の値を記入する。
^{k)} 最新版の骨材試験成績表の値を記入する。
^{l)} 回収水のうちスラッジ水を使用する場合は、“回収水（スラッジ水）”と記入する。
^{m)} スラッジ水を使用する場合に記入する。目標スラッジ固形分率とは、3%以下のスラッジ固形分率の限度を保證できるように定めた値である。
ⁿ⁾ 人工軽量骨材の場合は、絶対乾燥状態の質量で、その他の骨材の場合は表面乾燥飽水状態の質量で表す。
^{o)} 高炉スラグ微粉末などを結合材として使用した場合にだけ記入する。
^{p)} 全骨材の質量に対する各骨材の計量設定割合をいう。
^{q)} コンクリート中のアルカリ総量を規制する抑制対策の方法を講じる場合にだけ別表に記入する。
^{r)} 購入者から通知を受けたアルカリ量を用いて計算する。

注記 用紙の大きさは、日本工業規格 A 列 4 番 (210 mm × 297 mm) とする。

コンクリート用砕石試験成績書

種類		原石の種類																											
製造会社名		採取地の地名・地番																											
工場名		試験実施日	物理試験：																										
			アルカリシリカ反応性試験：																										
試験項目 (物理試験)	規格値	試験値	備考																										
絶乾比重 (JIS A 1110)	2.5以上		表乾比重 ()																										
吸水率 (JIS A 1110)	3.0%以下																												
安定性 (JIS A 1122)	12%以下																												
すりへり減量 (JIS A 1121)	40%以下																												
洗い試験で失われる量 (JIS A 1103)	1.0%以下																												
粒形判定実績率	55%以上		砕石2005だけ																										
<p>ふるい分け試験 (JIS A 1102)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>ふるいの呼び寸法</th> <th>各ふるいを通るものの質量百分率 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td rowspan="10">ふるい分け試験結果</td><td>100</td><td></td></tr> <tr><td>80</td><td></td></tr> <tr><td>60</td><td></td></tr> <tr><td>50</td><td></td></tr> <tr><td>40</td><td></td></tr> <tr><td>25</td><td></td></tr> <tr><td>20</td><td></td></tr> <tr><td>15</td><td></td></tr> <tr><td>10</td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td></tr> <tr><td>2.5</td><td></td></tr> </tbody> </table>					ふるいの呼び寸法	各ふるいを通るものの質量百分率 (%)	ふるい分け試験結果	100		80		60		50		40		25		20		15		10		5		2.5	
	ふるいの呼び寸法	各ふるいを通るものの質量百分率 (%)																											
ふるい分け試験結果	100																												
	80																												
	60																												
	50																												
	40																												
	25																												
	20																												
	15																												
	10																												
	5																												
2.5																													
アルカリシリカ反応性試験 (JIS A 5308附属書7又は8)		試験結果																											
		試験方法																											
		A：無害と判定 B：無害と判定されない。又は試験を行っていない。																											
試験機関名	物理試験：																												
	アルカリシリカ反応性試験：																												
作成者	担当部署：																												
	担当者名：																												

(A4判)

コンクリート用砕砂試験成績書

種類		原石の種類																																																																																																																																																																																						
製造会社名		採取地の地名・地番																																																																																																																																																																																						
工場名		試験実施日	物理試験：																																																																																																																																																																																					
			アルカリシリカ反応性試験：																																																																																																																																																																																					
試験項目 (物理試験)	規格値	試験値	備考																																																																																																																																																																																					
絶乾比重 (JIS A 1109)	2.5以上		表乾比重 ()																																																																																																																																																																																					
吸水率 (JIS A 1109)	3.0%以下																																																																																																																																																																																							
安定性 (JIS A 1122)	10%以下																																																																																																																																																																																							
洗い試験で失われる量 (JIS A 1103)	7.0%以下																																																																																																																																																																																							
粒形判定実績率	53%以上																																																																																																																																																																																							
<table border="1"> <tr> <td>ふるいの呼び寸法</td> <td>各ふるいを通るものの質量百分率 (%)</td> </tr> <tr> <td rowspan="6">ふるい分け試験結果</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>5</td> </tr> <tr> <td>2.5</td> </tr> <tr> <td>1.2</td> </tr> <tr> <td>0.6</td> </tr> <tr> <td>0.3</td> </tr> <tr> <td>0.15</td> </tr> <tr> <td>粗粒率</td> <td></td> </tr> <tr> <td>協議により定めた粗粒率</td> <td></td> </tr> </table>	ふるいの呼び寸法	各ふるいを通るものの質量百分率 (%)	ふるい分け試験結果	10	5	2.5	1.2	0.6	0.3	0.15	粗粒率		協議により定めた粗粒率		<table border="1"> <tr> <td rowspan="10">各ふるいを通るものの質量百分率 (%)</td> <td>100</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td>80</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td>60</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td>40</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td>20</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td>0</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>0.15</td><td>0.3</td><td>0.6</td><td>1.2</td><td>2.5</td><td>5</td><td>10</td> <td colspan="13"></td> </tr> <tr> <td></td> <td colspan="19">ふるいの呼び寸法 (mm)</td> </tr> </table>			各ふるいを通るものの質量百分率 (%)	100																				80																					60																					40																					20																					0																						0.15	0.3	0.6	1.2	2.5	5	10															ふるいの呼び寸法 (mm)																		
	ふるいの呼び寸法	各ふるいを通るものの質量百分率 (%)																																																																																																																																																																																						
	ふるい分け試験結果	10																																																																																																																																																																																						
		5																																																																																																																																																																																						
		2.5																																																																																																																																																																																						
		1.2																																																																																																																																																																																						
		0.6																																																																																																																																																																																						
		0.3																																																																																																																																																																																						
0.15																																																																																																																																																																																								
粗粒率																																																																																																																																																																																								
協議により定めた粗粒率																																																																																																																																																																																								
各ふるいを通るものの質量百分率 (%)	100																																																																																																																																																																																							
	80																																																																																																																																																																																							
	60																																																																																																																																																																																							
	40																																																																																																																																																																																							
	20																																																																																																																																																																																							
	0																																																																																																																																																																																							
		0.15	0.3	0.6	1.2	2.5	5	10																																																																																																																																																																																
		ふるいの呼び寸法 (mm)																																																																																																																																																																																						
	アルカリシリカ反応性試験 (JIS A 5308附属書7又は8)	試験結果																																																																																																																																																																																						
		試験方法																																																																																																																																																																																						
A：無害と判定 B：無害と判定されない。又は試験を行っていない。																																																																																																																																																																																								
試験機関名	物理試験：																																																																																																																																																																																							
	アルカリシリカ反応性試験：																																																																																																																																																																																							
作成者	担当部署：																																																																																																																																																																																							
	担当者名：																																																																																																																																																																																							

(A4判)

(平成22年3月31日まで適用)

レディーミクストコンクリート納入書					
					No. _____
					平成 年 月 日
_____ 殿			製造会社名・工場名 _____		
納入場所					
運搬車番号					
納入時刻	発	時 分			
	着	時 分			
納入容積		m ³	累計		m ³
呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スランブ	粗骨材の最大寸法による記号	セメントの種類による記号
荷受職員認印		出荷係認印			
備考					

備考 用紙の大きさは、日本工業規格A列5番(148×210mm)とする。

(平成22年4月1日から適用)

レディーミクストコンクリート納入書											
										No. _____	
										平成 年 月 日	
_____ 殿						製造会社名・工場名 _____					
納入場所											
運搬車番号											
納入時刻	発		時 分								
	着		時 分								
納入容積			m ³			累計			m ³		
呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スランブ又はスランブフロー cm			粗骨材の最大寸法 mm			セメントの種類による記号		
配合表 ^{a)} kg/m ³											
セメント	混和材	水	細骨材 ①	細骨材 ②	細骨材 ③	粗骨材 ①	粗骨材 ②	粗骨材 ③	混和剤 ①	混和剤 ②	
水セメント比		%	水結合材比 ^{b)}		%	細骨材率		%	スラッジ固形分率		%
注記 配合の種類： <input type="checkbox"/> 標準配合 <input type="checkbox"/> 修正標準配合 <input type="checkbox"/> 計量読取記録から算出した単位量 <input type="checkbox"/> 計量印字記録から算出した単位量 <input type="checkbox"/> 計量印字記録から自動算出した単位量											
荷受職員認印						出荷係認印					
注記 用紙の大きさは、日本工業規格A列5番(148mm×210mm)又はB列5番(182mm×256mm)とするのが望ましい。 注 ^{a)} 標準配合、修正標準配合、計量読取記録から算出した単位量、計量印字記録から算出した単位量、若しくは計量印字記録から自動算出した単位量のいずれかを記載する。また、備考欄の配合の種類別については、該当する項目にマークを付す。 注 ^{b)} 高炉スラグ微粉末などを結合材として使用した場合にだけ記入する。											